

1.研修プログラムの名称

脳神経内科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

医師としての基本的価値観である社会的使命と公衆衛生への寄与や利他的な態度、人間性の尊重、自らを高める姿勢を養い、そのために必要となる医学・医療における倫理性や医学的知識・問題対応能力、診療技能を習得する。また研修では患者ケアやコミュニケーション能力も必要であり、チーム医療の実践、医療の質と安全管理、地域社会における医療の実践を通して、科学的探究心や生涯にわたって学ぶ姿勢を習得する。

神経学分野は2013年7月に講座として開講した。当科では、入院は13B病棟でベッド数22床を有しており、外来は午前2診・午後1診体制として、一般脳神経内科外来および各種専門外来を開いている。高齢化社会を迎えた本邦において神経系に障害を持つ患者は急増しており、一般臨床においても神経疾患を扱う機会は急速に増大している。特に脳血管障害、認知症、頭痛、てんかん、神経感染症などは、一般外来診療でも遭遇する機会が多く、将来、どの専門分野を専攻するにあたって、脳神経内科での臨床研修は有用である。本研修では、実際に外来・入院患者の診療に携わることにより、診断に至るプロセス、検査手技、治療法に対する理解を深め、今後の診療技術の向上に貢献することを目的とする。

3.到達目標

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性：診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

2. 医学知識と問題対応能力：最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

3. 診療技能と患者ケア：臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

4. コミュニケーション能力：患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

5. チーム医療の実践：医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理：患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

7. 社会における医療の実践：医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

8. 科学的探究：医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢：医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

2. 病棟診療
3. 初期救急対応
4. 地域医療

4.指導体制・方略

指導医、医員、専攻医から構成される入院診療グループに配属され、上級医の指導のもと、診察、検査、診断、治療計画の立案と実施を行うとともに入院患者プレゼンテーションなどを通じて、神経疾患の病態や治療についての理解を深める。また脳神経内科専門医によるレクチャーにより、科学的探究心を養い、生涯に渡って学ぶ姿勢を身につける。さらに脳卒中関連科合同カンファレンスやリハビリテーション科合同カンファレンスなどのカンファレンスへ参加し、他科および他職種とのコミュニケーションを図る。

外来では頻度の高い症候や病態に接し、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行えるようにする。また慢性疾患については継続診療および医療連携について学べるようにする。

緊急性の高い病態を有する患者に対しては外来・入院を問わず、上級医と共に病態の把握、診断、治療、他科との連携を学べるようにする。

5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	9:00～ 病棟業務	8:15～ 症例検討会 9:30～ 教授回診	9:00～ 病棟業務	9:00～ 病棟業務	8:15～ 科内カンファ レンス 8:30～ 病棟業務	9:00～ 病棟業務
午後	13:00～ 病棟業務	14:00～ 神経生理検査 16:30～ 医局勉強会	13:00～ 病棟業務	13:00～ 病棟業務	13:00～ 病棟業務	

6.カンファレンス

- ・ 担当患者のプレゼンテーションを行う
- ・ 医局勉強会にて、神経内科学に関する最新知識、総論的知識を獲得する
- ・ 神経疾患について文献検索を行いレビューする

7.研修活動

積極的に臨床研究、治験の業務に関わり、研究活動に参加する。

8.評価

1) 研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

3) コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

9.その他特記事項

当科は、神経内科関連学会での発表や、他大学合同の症例検討研究会を活発に行っている。研修医の希望があれば、それらの研究会で研究発表を行い、さらに論文として出版することに最大限の援助をする。

10.研修中に作成する病歴要約

（**赤太字**必ず作成する、**太字**可能なかぎり作成する、ほか対象疾患を診察したら作成する）

経験すべき症候

ショック、体重減少・るい痩、発熱、**もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作**、視力障害、心停止、呼吸困難、**便通異常(下痢・便秘)**、腰・背部痛、**運動麻痺・筋力低下**、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、**興奮・せん妄**、終末期の症候

経験すべき疾病・病態

脳血管障害、認知症、高血圧、肺炎、糖尿病、脂質異常症